

プロ野球について

富田 翔平

目次

第1章 はじめに.....	1
第2章 プロ野球の歴史.....	2
第2章第1節 2リーグ制以前.....	2
第2章第2節 オーナーの変遷.....	2
第3章 ファイターズとホークスとの比較.....	5
第3章第1節 ホークス.....	5
第3章第2節 ファイターズ.....	6
第3章第3節 ホークスのホームゲーム入場者数とチーム成績.....	6
第3章第4節 ファイターズのホームゲーム入場者数とチーム成績.....	11
第4章 スポンサー提携.....	14
第4章第1節 ホークス.....	14
第4章第2節 ファイターズ.....	15
第5章 まとめ.....	15
【参考文献】.....	15

第1章 はじめに

私たちが何気なく目にするプロ野球というスポーツ。私たちはプロ野球を観に球場へ足を運ぶが、試合を開催することで大きな資金が動いているのである。私と越田 匠は2013年度に共同研究で日本プロ野球の歴史とスポンサーについて研究した。私達は10年間以上野球を続けてきて、野球に興味があり、趣味としてプロ野球観戦に行くことが多い。そのため、プロ野球の歴史や、プロ野球を支えているスポンサーに興味を持ったので研究することにしたのである。プロ野球界は観客、スポンサーに支えられて成り立っているのである。

第2章 プロ野球の歴史

第2章第1節 2リーグ制以前

まず、プロ野球の歴史の概略についてである。1936年に日本職業野球連盟が発足したが、1939年に日本野球連盟、1944年に日本野球報国会と、太平洋戦争の戦局の悪化のため名称変更と、1949年に日本野球連盟が解散し、1950年に日本野球機構が発足した。日本野球機構の発足以降、球団は12球団で運営されていく。そして様々なオーナーが運営していくのである。昭和11年2月5日、東京・日本工業倶楽部にて日本職業野球連盟が設立され、東京巨人、大阪タイガース、西日本野球連盟名古屋協会（名古屋軍・現中日ドラゴンズ）、東京野球協会、大阪阪急野球協会、大日本野球連盟東京倶楽部、名古屋野球倶楽部の計7球団でスタートした。第一回全日本野球選手権大会はトーナメント形式にて東京大会（名古屋優勝）、大阪大会（阪急優勝）、名古屋大会（タイガース優勝）の3大会において開催されたが、3大会通算の優勝チームは決められておらず、この大会における優勝チームは該当なしであった。第2回全日本野球選手権大会がプロ野球における最初のペナントレースとして位置づけられている。この大会では勝ち点2.5で並ぶタイガースと巨人の間で優勝決定戦を行い、2勝1敗で巨人が優勝した。1948年に現在の日本野球機構が設立された。発足後すぐに2リーグ制になり現在のセリーグ、パリーグに分かれた。

第2章第2節 オーナーの変遷

日本プロ野球団の現在の運営母体（表1・表2）は、読売ジャイアンツは読売新聞で、中日ドラゴンズは中日新聞、横浜DeNAベイスターズはDeNAで、埼玉西武ライオンズは西武鉄道、阪神タイガースは阪神電鉄、北海道日本ハムファイターズは日本ハム、千葉ロッテマリーンズはロッテ、東京ヤクルトスワローズはヤクルト本社、福岡ソフトバンクホークスはソフトバンク、東北楽天ゴールデンイーグルスは楽天、オリックスバファローズはオリックス、広島東洋カープはマツダである。昔は映画会社、鉄道会社が多く占めていたのである。映画会社は東映などであり、鉄道会社は阪急などである。現在は新聞社、ゲーム会社、鉄道、食品、通信、金融、自動車会社が親会社になっているのである。読売ジャイアンツ、中日ドラゴンズ、広島東洋カープ以外はすべての球団名、すなわち運営母体の変遷しているのである。

表1 セリーグ6球団のオーナーの変遷

年	ジャイアンツ	ドラゴンズ	ベイスターズ	スワローズ	カープ	タイガース
1950	読売ジャイアンツ	中日ドラゴンズ	大洋ホエールズ	国鉄スワローズ	広島カープ	大阪タイガース
1961	〃	〃	〃	〃	〃	阪神タイガース
1965	〃	〃	〃	サンケイスワロー	〃	〃

富田 翔平「プロ野球について」
(2015年1月10日提出 ゼミ卒業論文)

				ズ		
1966	〃	〃	〃	サンケイアトムズ	〃	〃
1969	〃	〃	〃	〃	広島東洋カ ープ	〃
1970	〃	〃	〃	ヤクルトアトムズ	〃	〃
1974	〃	〃	〃	ヤクルトスワロー ズ	〃	〃
1978	〃	〃	横浜大洋ホエールズ	〃	〃	〃
1993	〃	〃	横浜ベイスターズ	〃	〃	〃
2006	〃	〃	〃	東京ヤクルトスワ ローズ	〃	〃
2012	〃	〃	横浜 DeNA ベイス ターズ	〃	〃	〃

※出典：日本野球機構(2015c1. 1950)「年度別成績 1950年 セントラル・リーグ」～日本野球機構(2015c1. 2014)「年度別成績 2014年 セントラル・リーグ」をもとに、小木曾道夫・越田匠・富田翔平が作成した。

表 2 パリーグ 6 球団のオーナーの変遷

年	ホークス	ライオンズ	ファイターズ	ブレーブス	マリーンズ	バッファローズ	ゴールデンイーグルス
1950	南海ホークス	西鉄ライオンズ	東急フライヤーズ	阪急ブレーブス	毎日オリオンズ	近鉄パールス	-
1958	〃	〃	〃	〃	毎日大映オリオンズ	〃	-
1959	〃	〃	〃	〃	〃	近鉄バッファロー	-
1962	〃	〃	〃	〃	〃	近鉄バッファローズ	-
1964	〃	〃	〃	〃	東京オリオンズ	〃	-
1969	〃	〃	〃	〃	ロッテ・オリオンズ	〃	-

					リオンズ		
1973	〃	太平洋ク ラブ・ライ オンズ	日拓ホー ム・フライヤ ーズ	〃	〃	〃	-
1974	〃	〃	日本ハム・フ ァイターズ	〃	〃	〃	-
1977	〃	クラウン ライター・ライ オンズ	〃	〃	〃	〃	-
1979	〃	西武ライ オンズ	〃	〃	〃	〃	-
1989	福岡ダ イエー ホーク ス	〃	〃	オリック ス・ブレー ブス	〃	〃	-
1991	〃	〃	〃	オリック ス・ブルー ウェーブ	〃	〃	-
1992	〃	〃	〃	〃	千葉ロッ テマリー ンズ	〃	-
1999	〃	〃	〃	〃	〃	大阪近鉄 バファロ ーズ	-
2004	〃	〃	北海道日本 ハムファイ ターズ	〃	〃	オリック スバファ ローズ	-
2005	福岡ソ フトバ ンクホ ークス	〃	〃	〃	〃	〃	東北楽 天ゴー ルデン イーゲ ルス

2012	〃	〃	〃	〃	〃	〃	東北楽天ゴールデンイーグルス
------	---	---	---	---	---	---	----------------

※出所：日本野球機構(2015p1. 1950)「年度別成績 1950 年 パシフィック・リーグ」～日本野球機構(2015p1. 2014)「年度別成績 2014 年 パシフィック・リーグ」をもとに、小木曾道夫・越田匠・富田翔平が作成した。

第 3 章 ファイターズとホークスとの比較

ホークスとファイターズの球団比較をする。私はファイターズファンでありファイターズは、現在北海道に本拠地を置いている。一方、ホークスは福岡に本拠地を置いている。共通して言えることは、どちらも近隣に他球団がなく競合球団がないのである。よって北海道民、福岡並びに九州の人はおそらく地元の球団を応援するであろう。2014 年に優勝したソフトバンクホークスと日本ハムファイターズを比較していこうと思う。まずは、球団の成り立ちである。

第 3 章第 1 節 ホークス

1938 年 3 月 1 日に南海鉄道を親会社とする「南海軍」が結成され、関西の私鉄界では阪神電気鉄道、阪神急行電鉄に続く 3 番目のプロ野球球団となった。阪神の細野躋や阪急の小林一三が南海の寺田甚吉社長と小原英一取締役に設立を勧め、寺田のツルの一声で決まったとされている。誕生に際しては「陣痛の苦しみを知らぬおおらかさで産声を上げた」と「南海ホークス 40 年史」で記述されている。本拠地は大阪府堺市の堺大浜球場である。同年 3 月 29 日に行われた日本職業野球連盟の総会で加盟が承認されたが、この総会の状況についてはいくつかの異なる証言がある。当時連盟理事長の鈴木竜二が「古い話で誰が言ったか定かでない」と述べているが、名古屋金鯱軍の山口勲が反対意見を出したのが定説とされる。反対意見は既に 1937 年度から 8 チームでのリーグ戦を開催していたため、南海軍の出場を認めると 9 チームで開催することとなり、日程上 1 チームは試合から外されてしまう事への抵抗だったとされる。一方で大阪タイガース常務の細野躋が南海の加盟が認められないなら脱退も辞さぬと述べたともされるが、そのような陰悪な雰囲気はなかったと、総会に参加した書記の野口務の報告にある。また、当時の部員は監督と選手合わせて 14 名と人数的にも少なかった。しかし、連盟とリーグ参加各チームは条件付きの参入を決めた。これは春季リーグの参加は開幕が近づいており、日程編成の調整が難しかったことも考えられているが、一番の理由としては「選手を補強し、その実力を考慮に入れた上で秋季リーグからの参加を認める」というもので、春季リーグはいわばリーグ戦に参加できない準加盟チーム扱いでのスタートだった。その為秋季リーグ戦から参加となったのであ

る。これが現在の福岡ソフトバンクホークスの始まりである。はじめは福岡ではなく大阪に本拠地をおいていたのだ。1989年に本拠地が福岡市の平和台球場に移され、球団名も「福岡ダイエーホークス」と改められた。新天地の福岡は、かつて南海と覇権を激しく争った西鉄ライオンズの本拠地ただけに福岡のファンに受け入れられるか心配されていたが、10年ぶりのプロ球団設置に地元では歓迎ムードの方が大きかった。それでも移転後ダイエーがしばらく下位低迷を続けたこともあって、スタンドには空席が目立つことも多く、当時の対西武戦では西武ファンの割合が多かった。1992年に福岡にドーム式の球場ができ、それが現在の福岡ドーム（福岡ヤフオク！ドーム）である。

第3章第2節 ファイターズ

1936年、日本職業野球連盟結成の中心にいた正力松太郎は、自らオーナーとなった東京巨人軍に対する「首都圏におけるライバル球団」が必要と考えて政治家の有馬頼寧を頼み、それを受け西武鉄道（旧社）（現在の西武新宿線を経営していた会社）の後援により「東京セネターズ」として設立された。セネターとはアメリカ合衆国の上院議員を意味する。当時オーナーの有馬は貴族院議員であり、球団社長も有馬の実弟で同じく貴族院議員の安藤信昭が就任した。このことから貴族院が実質的な上院、ということでメジャーリーグベースボールのワシントン・セネターズ（現：ミネソタ・ツインズ）に倣ってこの名称が付いたとされる。語呂合わせから、「青踏軍」とも称された。戦後の1946年にプロ野球が再開されると、戦前の東京セネターズの軸を成した横沢兄弟が中心となって改めて「セネターズ」が新球団として結成された。しかし、経済的な理由から翌年には「東急フライヤーズ」となり、セネターズの名称は消滅した。1947年に東急フライヤーズが誕生した。2003年まで本拠地を東京に置き、2004年から現在の札幌ドームに本拠地を置いている。これが北海道日本ハムファイターズのはじまりである。

ではここから2球団のホームゲーム入場者数とチーム成績についてみていく。

第3章第3節 ホークスのホームゲーム入場者数とチーム成績

表3では1952年からホークスのホームゲーム入場者数とチーム成績が記録されている。1952年のホークスはチーム名が南海ホークスであり、本拠地が大阪球場であった。ホークスは1938年から1988年までのちょうど50年間本拠地を大阪に構えていた。この50年間でホーム入場者数が1番多いのは50年の最後の年の1988年の918,000である。この年は順位が5位であるが9月にダイエーへの球団売却が発表され、南海としての最後のシーズンとなった。在籍していた門田が40歳という年齢で44本塁打・125打点を挙げ40歳の選手としての最高記録を残して二冠王、更にMVPも獲得し、佐々木誠、トニー・バナザードが活躍した。おそらく最後になる南海ホークスを目撃するために観客が増えたのであろう。それを度外視すると1961年の897,090である。この年はやはりリーグ優勝をしている。この年は日本一を逃したものの、誰もが知っているであろう野村克也がこの年からパリーグ

記録となる 8 年連続本塁打王を獲得した。広瀬叔功は初の盗塁王を獲得、この年から 5 年連続で獲得している。

1989 年から南海ホークスから福岡ダイエーホークスに改名された。その経緯は不採算の球団を売却しようとする南海側と、福岡再開発事業の目玉に球団を保有し、九州を核としてアジアも視野に入れた商圈拡大を目論むダイエー側の思惑が一致し、南海電鉄は「ホークス」の名を残すことと監督の杉浦忠の留任を条件に、球団をダイエーに売却したのである。本拠地は福岡市の平和台球場に移され、球団名も「福岡ダイエーホークス」と改められたのだ。新天地の福岡は、かつて南海と覇権を激しく争った西鉄ライオンズの本拠地ただけに福岡のファンに受け入れられるか心配されていたが、10 年ぶりのプロ球団設置に地元では歓迎ムードの方が大きかったという。それでも移転後ダイエーがしばらく下位低迷を続けたこともあって、スタンドには空席が目立つことも多く、当時の対西武戦では西武ファンの割合が多かったのである。平和台球場では 4 年間プレーをしたが思うような結果が出せていなかった。

1993 年春に日本初の開閉式屋根を持つドーム球場として福岡ドームが完成すると同時にユニフォームのデザインも変更された。そして 1993 年から現在の福岡ドームを本拠地に構えることになる。この年から根本陸夫監督を迎えたが結果を残せず 2 年で退任した。そして 1995 年に王貞治監督が就任する。それから 3 年間は B クラスに甘んじたが、2008 年の王貞治監督が退任する年以外は全て A クラス入りを果たした。1999 年は投手コーチとして就任した尾花高夫が手腕を発揮したのである。先発の穴を二年目の永井智浩と星野順治を抜擢し共に 10 勝をマーク、同じく 2 年目の篠原貴行が中継ぎながら 14 勝 1 敗で最高勝率のタイトルを獲得した。そして藤井が最優秀中継ぎ投手、工藤が最優秀防御率・最多奪三振・シーズン MVP 獲得した。若田部がここ数年の不振を脱出し 5 年ぶりに 10 勝したのだ。結果、長年課題と言われていた投手力で福岡移転後初のリーグ優勝を達成したのである。更に日本シリーズでは中日ドラゴンズを 4 勝 1 敗で下し、日本一となった。翌年の 2000 年も優勝し連覇を果たした。

そして福岡ドームに移転後 1 番ホームゲーム入場者数が多かった年は王貞治監督時代の 2003 年である 3,228,000。この年は打率 2 割 9 分 7 厘で 3 年ぶりのリーグ優勝を飾っている。阪神との日本シリーズでも 4 勝 3 敗で勝ち日本一にもなっているのである。チーム打率が日本新記録となる .297 で、打率 3 割の打者が 6 人、また、史上初の 100 打点の選手を 1 チームで 4 人（井口資仁、松中信彦、城島健司、ペドロ・バルデス）この「100 打点カルテット」を中心に活躍したのである。井口資仁 109 打点・盗塁王も獲得、松中信彦 123 打点・打点王を獲得、城島健司 119 打点・シーズン MVP を獲得したのだ。柱不在と言われていた投手陣は、前年 4 勝ながら開幕投手を努め、パリーグでは 18 年ぶりの 20 勝投手となった斉藤和巳がいた。新人ながら 14 勝を上げて新人王となった和田毅、同じくルーキーの新垣渚、和田・新垣と同じ年の二年目杉内俊哉、寺原隼人等の前年とは全く一新された先発投手陣の活躍があったのだ。しかし、王貞治監督はこの優勝を最後に就任最後の 2008 年

まで優勝することはなかった。2008 年のシーズンは最下位に沈み、王貞治監督の体調不良も原因で勇退し、2009 年からチーフコーチであった秋山幸二が監督に就任した。

2005 年にソフトバンクがダイエーの保有していた球団株式と興行権を取得し、福岡ドームの使用契約を締結することで名実ともに「福岡ソフトバンクホークス」のスタートを切った。また、王監督が球団の取締役副社長兼 GM（ゼネラルマネージャー）に就任することも発表されたのである。2005 年からダイエーからソフトバンクに変わったのである。2009 年から指揮を執った秋山幸二監督は 6 年間で 3 度の優勝を誇った。

表 3 ホークスのホームゲーム入場者数とチーム成績

年	ホームゲーム入場者数	監督	順位	試合	勝率	打率	本塁打	防御率
1938 秋		高須 一雄	8	40	0.297	0.202	5	2.82
1939		高須・三谷	5	96	0.444	0.230	15	2.51
1940		高須 一雄	8	105	0.283	0.196	6	2.44
1941		三谷 八郎	4	84	0.512	0.195	12	1.82
1942		三谷・加藤	6	105	0.467	0.202	11	1.90
1943		高田・加藤	8	84	0.317	0.184	6	2.48
1944		加藤 喜作	6	35	0.324	0.201	3	2.09
1946		山本 一人	1	105	0.631	0.273	24	3.08
1947		山本 一人	3	119	0.518	0.231	24	2.39
1948		山本 一人	1	140	0.640	0.255	45	2.18
1949		山本 一人	4	135	0.500	0.270	90	3.95
1950		山本 一人	2	120	0.574	0.279	88	3.38
1951		山本 一人	1	104	0.750	0.276	48	2.40
1952	656,002	山本 一人	1	121	0.633	0.268	83	2.84
1953	769,500	山本 一人	1	120	0.597	0.265	61	3.02
1954	736,500	山本 一人	2	140	0.650	0.250	82	2.50
1955	749,300	山本 一人	1	143	0.707	0.249	90	2.61
1956	713,900	山本 一人	2	154	0.643	0.250	68	2.23
1957	603,700	山本 一人	2	132	0.595	0.252	98	2.68
1958	743,600	山本 一人	2	130	0.612	0.248	93	2.53
1959	858,869	鶴岡 一人	1	134	0.677	0.265	90	2.44
1960	701,417	鶴岡 一人	2	136	0.600	0.247	103	2.88

富田 翔平「プロ野球について」
 (2015 年 1 月 10 日提出 ゼミ卒業論文)

1961	897,090	鶴岡 一人	1	140	0.629	0.262	117	2.96
1962	628,877	鶴岡 一人	2	133	0.562	0.253	119	3.27
1963	727,468	鶴岡 一人	2	150	0.582	0.256	184	2.70
1964	646,235	鶴岡 一人	1	150	0.571	0.259	144	3.12
1965	556,811	鶴岡 一人	1	140	0.642	0.255	153	2.80
1966	572,371	鶴岡 一人	1	133	0.608	0.245	108	2.59
1967	532,493	鶴岡 一人	4	133	0.492	0.235	108	3.04
1968	632,450	鶴岡 一人	2	136	0.608	0.243	127	2.92
1969	474,072	飯田 徳治	6	130	0.397	0.241	85	3.56
1970	454,500	野村 克也	2	130	0.548	0.255	147	3.43
1971	453,100	野村 克也	4	130	0.484	0.260	156	4.27
1972	475,000	野村 克也	3	130	0.516	0.253	133	3.48
1973	657,700	野村 克也	1	130	0.540	0.260	113	3.35
1974	564,100	野村 克也	3	130	0.518	0.246	124	3.06
1975	427,900	野村 克也	5	130	0.467	0.246	102	2.98
1976	554,000	野村 克也	2	130	0.559	0.259	97	2.91
1977	641,000	野村 克也	2	130	0.534	0.250	108	3.15
1978	444,000	広瀬 叔功	6	130	0.353	0.239	78	4.01
1979	466,000	広瀬 叔功	5	130	0.387	0.276	125	4.86
1980	603,500	広瀬 叔功	6	130	0.384	0.274	183	5.63
1981	546,500	D. ブレイザー	5	130	0.449	0.273	128	4.37
1982	439,000	D. ブレイザー	6	130	0.427	0.255	90	4.05
1983	650,000	穴吹 義雄	5	130	0.430	0.268	128	4.75
1984	610,000	穴吹 義雄	5	130	0.449	0.269	159	4.89
1985	553,000	穴吹 義雄	6	130	0.367	0.260	149	5.05
1986	603,000	杉浦 忠	6	130	0.402	0.251	136	4.46
1987	883,000	杉浦 忠	4	130	0.475	0.261	132	3.86
1988	918,000	杉浦 忠	5	130	0.450	0.267	162	4.07
1989	1,251,000	杉浦 忠	4	130	0.480	0.257	166	4.74
1990	1,346,000	田淵 幸一	6	130	0.325	0.251	116	5.56
1991	1,573,000	田淵 幸一	5	130	0.421	0.253	152	4.74
1992	1,677,000	田淵 幸一	4	130	0.442	0.258	139	4.60
1993	2,462,000	根本 陸夫	6	130	0.360	0.246	75	4.22
1994	2,525,000	根本 陸夫	4	130	0.535	0.275	132	4.10
1995	2,493,000	王 貞治	5	130	0.429	0.259	94	4.16

1996	2,207,000	王 貞治	6	130	0.422	0.263	97	4.04
1997	2,307,000	王 貞治	4	135	0.470	0.264	132	4.26
1998	2,163,000	王 貞治	3	135	0.500	0.264	100	4.02
1999	2,390,000	王 貞治	1	135	0.591	0.257	140	3.65
2000	2,786,000	王 貞治	1	135	0.549	0.268	129	4.03
2001	3,087,000	王 貞治	2	140	0.547	0.273	203	4.49
2002	3,108,000	王 貞治	2	140	0.529	0.267	160	3.86
2003	3,228,000	王 貞治	1	140	0.599	0.297	154	3.94
2004	3,070,000	王 貞治	2	133	0.597	0.292	183	4.58
2005	2,165,445	王 貞治	2	136	0.664	0.281	172	3.46
2006	2,037,556	王 貞治	3	136	0.573	0.259	82	3.13
2007	2,307,160	王 貞治	3	144	0.525	0.267	106	3.18
2008	2,250,044	王 貞治	6	144	0.454	0.265	99	4.05
2009	2,245,969	秋山 幸二	3	144	0.532	0.263	129	3.69
2010	2,164,430	秋山 幸二	1	144	0.547	0.267	134	3.89
2011	2,293,899	秋山 幸二	1	144	0.657	0.267	90	2.32
2012	2,447,501	秋山 幸二	3	144	0.508	0.252	70	2.56
2013	2,408,993	秋山 幸二	4	144	0.514	0.274	125	3.56
2014	2,468,422	秋山 幸二	1	144	0.565	0.280	95	3.25

※出典：ホームゲーム入場者数は1952～2004年は日本プロ野球史探訪倶楽部(2005)、2005～2008年はDongKing(2010)、2009～2014年はパシフィック野球連盟(2009～2014)をもとに、チーム成績は日本野球機構(2014j)「福岡ソフトバンクホークス 年度別成績(1938-2014)」をもとに、小木曾道夫・越田匠・富田翔平が作成した。

表4は、表3のホークスのホームゲーム入場者数のデータが入手できた1952年～2014年の時系列データについて、IBM SPSS Statistics 22を使用して相関係数(γ)を計算した。ホークスのホームゲーム入場者数は、防御率(-0.191)や勝率(0.060)とは無相関であったが、 $\gamma=0.551$ と打率が高い年にはホームゲーム観客動員数が多いという傾向が認められた。

表 4 ホークスのホームゲーム入場者数およびチーム成績の相関係数(1952年～2014年)

	ホーム ゲーム入 場者数	順位	勝率	打率	本塁打	防御率
ホームゲーム入場者数	1.000	-0.121	0.060	0.551	0.158	0.191
順位	-0.121	1.000	-0.905	-0.151	0.021	0.668
勝率	0.060	-0.905	1.000	0.118	-0.091	-0.771
打率	0.551	-0.151	0.118	1.000	0.433	0.346
本塁打	0.158	0.021	-0.091	0.433	1.000	0.510
防御率	0.191	0.668	-0.771	0.346	0.510	1.000

※出典：表 3 を素データとして、小木曾道夫・越田匠・富田翔平が IBM SPSS Statistics 22 を使用して計算し、作表した。

第 3 章第 4 節 ファイターズのホームゲーム入場者数とチーム成績

ファイターズも上の表では 1952 年からホームゲーム入場者数が記録されている。1952 年のファイターズは東急フライヤーズであった。当時、1987 年まで後樂園球場、駒沢球場、明治神宮野球場を使用していた。1973 年のシーズンまで東急、日拓が所有しており 1974 年のシーズンから日本ハムが所有し日本ハムファイターズと変わった。ファイターズは 2003 年まで東京に本拠地を置いていた。57 年間で最もホームゲーム観客動員数が多かったのが、高田繁監督時代の 1988 年である。2,458,500 である。この年はなんと言っても本拠地が後樂園球場から東京ドームに移った年であるのだ。そして、順位も 3 位と A クラス入りを果たしている。この年投手陣は西崎、松浦宏明が最多勝、河野博文が防御率 1 位の活躍でチーム防御率も 1 位だった。しかし、助っ人外国人や主力の怪我が相次ぎ打率はリーグワーストであった。勝率も 5 割をきる 3 位となったのである。東京時代、優勝はわずか 2 回で日本一は 1 回にとどまった。

2004 年に北海道に移転をし、初めて北海道にプロ野球球団が誕生した。球団名も日本ハムファイターズから北海道日本ハムファイターズに変わったのだ。本拠地は札幌ドームに構えた。2003 年のオフに日本ハム球団株式会社は、株式会社北海道日本ハムファイターズへ球団運営権を譲渡し解散した。二軍は引き続き鎌ヶ谷市のファイターズスタジアムを拠点としている。旧本拠地の関東地域のファンのために年間数試合を引き続き東京ドームで行うのと、二軍の本拠地維持の関係上、鎌ヶ谷市に「首都圏事業グループ」を設置したのである。2004 年に北海道に移転してから観客動員数を増やすために CI と呼ばれる企業文化を構築し特性や独自性を統一されたイメージやデザイン、またわかりやすいメッセージで発信し社会と共有することで存在価値を高めていく企業戦略の導入を決定し、アメリカの SME 社と共同で球団のイメージアップに本格的に着手したのである。その一環として「地域密着」の方針を打ち出し、北海道内でのチームの認知度アップとファン層開拓を目指した。新庄を獲得したのも、ファン獲得の一環でもあったのだ。移転当初は「北海道は巨人ファンが圧倒的に多い」という現実があったが、道内での野球教室やファンイベントの開催、メディアへの露出促進などといったさまざまな活動が奏功して観客動員数は年々

増加した。また、トレイ・ヒルマンら首脳陣の下で森本、ダルビッシュらが成長し、高田繁らフロント陣の編成策によってチームの戦力層が強化された。2006 年からは、旭川スタルヒン球場、函館オーシャンスタジアム、帯広の森野球場での道内開催公式戦を、3 球場とも毎年開催するよう改めたのである。北海道に移転してから 4 度のリーグ優勝と 1 度の日本一に輝いている。北海道移転後のホームゲーム観客動員数が一番多かったのが 2009 年の 1,992,172 である。この年はリーグ優勝しており、打率リーグトップ、投手陣も好投を見せた。北海道日本ハムファイターズはホークスとは違い、勝率、打率、防御率平均的に良い成績の年はホームゲーム観客動員数が多いという傾向であった。

表 5 ファイターズのホームゲーム入場者数とチーム成績

年	ホームゲーム入場者数	監督	順位	試合	勝率	打率	本塁打	防御率
1946		横沢 三郎	5	105	0.448	0.238	43	3.67
1947		荻田 久徳	6	119	0.440	0.218	45	2.53
1948		荻田 久徳	5	140	0.457	0.228	49	3.08
1949		井野川 利春	7	138	0.467	0.243	93	4.18
1950		安藤 忍	6	120	0.425	0.256	87	4.52
1951		安藤 忍	6	102	0.404	0.241	71	3.64
1952	248,886	井野川 利春	6	108	0.454	0.251	51	3.95
1953	359,450	井野川 利春	6	120	0.427	0.220	50	3.26
1954	185,780	井野川 利春	7	140	0.377	0.234	46	3.73
1955	154,050	保井 浩一	7	143	0.364	0.232	40	3.18
1956	207,260	岩本 義行	6	154	0.390	0.216	41	2.86
1957	213,890	岩本 義行	5	132	0.436	0.227	45	2.80
1958	546,000	岩本 義行	5	130	0.450	0.237	40	2.70
1959	644,550	岩本 義行	3	135	0.515	0.242	78	2.98
1960	353,055	岩本 義行	5	132	0.400	0.236	80	2.92
1961	707,250	水原 茂	2	140	0.611	0.264	108	2.39
1962	1,366,500	水原 茂	1	133	0.600	0.252	85	2.42
1963	1,168,650	水原 茂	3	150	0.517	0.236	114	3.02
1964	944,000	水原 茂	3	150	0.534	0.250	100	2.95
1965	653,600	水原 茂	2	140	0.555	0.240	107	2.88
1966	810,100	水原 茂	3	136	0.538	0.256	91	2.75
1967	693,000	水原 茂	3	134	0.500	0.260	97	3.19
1968	578,000	大下 弘	6	135	0.392	0.248	118	3.97

富田 翔平「プロ野球について」
 (2015 年 1 月 10 日提出 ゼミ卒業論文)

1969	629,100	松木 謙治郎	4	130	0.449	0.254	116	3.35
1970	757,500	松木・田宮	5	130	0.435	0.253	147	4.18
1971	563,200	田宮 謙次郎	5	130	0.373	0.241	131	3.96
1972	746,500	田宮 謙次郎	4	130	0.508	0.270	149	3.82
1973	738,100	田宮・土橋	5	130	0.444	0.254	133	3.97
1974	550,000	中西 太	6	130	0.395	0.246	96	4.11
1975	520,500	中西 太	6	130	0.466	0.258	100	3.89
1976	881,000	大沢 啓二	5	130	0.437	0.258	107	3.72
1977	1,006,000	大沢 啓二	5	130	0.487	0.245	113	3.36
1978	1,067,000	大沢 啓二	3	130	0.466	0.264	131	3.98
1979	1,325,000	大沢 啓二	3	130	0.512	0.266	131	4.09
1980	1,518,000	大沢 啓二	3	130	0.555	0.264	167	3.61
1981	1,374,500	大沢 啓二	1	130	0.557	0.276	126	3.81
1982	1,071,000	大沢 啓二	2	130	0.563	0.266	127	3.63
1983	1,003,000	大沢 啓二	3	130	0.520	0.275	153	3.82
1984	964,000	植村・大沢	6	130	0.376	0.259	144	4.98
1985	914,000	高田 繁	5	130	0.449	0.265	169	4.36
1986	1,193,000	高田 繁	5	130	0.467	0.262	151	4.10
1987	1,242,000	高田 繁	3	130	0.512	0.259	128	3.96
1988	2,458,500	高田 繁	3	130	0.488	0.245	101	3.12
1989	2,385,000	近藤 貞雄	5	130	0.425	0.266	131	4.20
1990	2,274,000	近藤 貞雄	4	130	0.512	0.263	128	3.68
1991	2,250,000	近藤 貞雄	4	130	0.424	0.251	112	3.72
1992	2,112,000	土橋 正幸	5	130	0.425	0.259	99	4.20
1993	2,021,000	大沢 啓二	2	130	0.577	0.259	106	3.37
1994	1,721,000	大沢 啓二	6	130	0.368	0.252	101	4.62
1995	1,597,000	上田 利治	4	130	0.465	0.237	105	3.56
1996	1,600,000	上田 利治	2	130	0.540	0.249	130	3.49
1997	1,678,000	上田 利治	4	135	0.470	0.265	128	4.18
1998	1,572,000	上田 利治	2	135	0.508	0.255	150	3.83
1999	1,416,000	上田 利治	5	135	0.451	0.260	148	4.34
2000	1,475,000	大島 康德	3	135	0.515	0.278	177	4.70
2001	1,376,000	大島 康德	6	140	0.387	0.256	147	4.79
2002	1,260,000	大島 康德	5	140	0.445	0.247	146	3.86
2003	1,319,000	T. ヒルマン	5	140	0.456	0.269	149	4.88

2004	1,616,000	T. ヒルマン	3	133	0.504	0.281	178	4.72
2005	1,368,748	T. ヒルマン	5	136	0.466	0.254	165	3.98
2006	1,603,541	T. ヒルマン	1	136	0.603	0.269	135	3.05
2007	1,833,954	T. ヒルマン	1	144	0.568	0.259	73	3.22
2008	1,873,931	梨田 昌孝	3	144	0.514	0.255	82	3.54
2009	1,992,172	梨田 昌孝	1	144	0.577	0.278	112	3.65
2010	1,945,944	梨田 昌孝	4	144	0.525	0.274	91	3.52
2011	1,990,338	梨田 昌孝	2	144	0.526	0.251	86	2.68
2012	1,858,524	栗山 英樹	1	144	0.556	0.256	90	2.89
2013	1,855,655	栗山 英樹	6	144	0.451	0.256	105	3.74
2014	1,897,789	栗山 英樹	3	144	0.518	0.251	119	3.61

※出典：ホームゲーム入場者数は1952～2004年は日本プロ野球史探訪倶楽部(2005)、2005～2008年はDongKing(2010)、2009～2014年はパシフィック野球連盟(2009～2014)をもとに、チーム成績は日本野球機構(2014k)「北海道日本ハムファイターズ 年度別成績(1946-2014)」をもとに、小木曾道夫・越田匠・富田翔平が作成した。

表 6 ファイターズのホームゲーム入場者数およびチーム成績の相関係数(1952年～2014年)

	ホーム ゲーム入 場者数	順位	勝率	打率	本塁打	防御率
ホームゲーム入場者数	1.000	-0.445	0.367	0.486	0.348	0.177
順位	-0.445	1.000	-0.905	-0.421	-0.183	0.398
勝率	0.367	-0.905	1.000	0.458	0.161	-0.438
打率	0.486	-0.421	0.458	1.000	0.674	0.456
本塁打	0.348	-0.183	0.161	0.674	1.000	0.624
防御率	0.177	0.398	-0.438	0.456	0.624	1.000

※出典：表5を素データとして、小木曾道夫・越田匠・富田翔平がIBM SPSS Statistics 22を使用して計算し、作表した。

第4章 スポンサー提携

第4章第1節 ホークス

ホークスは、地元企業・商店が後援のため、ホークスサポーターズクラブとして球団と提携し、各種イベントや試合で勝利した場合に割引を行なうなどのホークスサポーターズクラブ、小売業との連携でローソンとのコラボ店舗などを出店。店舗内装には、通常使用されているブルーではなく、ホークスのチームカラーであるイエローをシンボルカラーとして使用し店内壁面に、ホークス選手15名のパネルを掲出している。福岡Yahoo! JAPANドームを模した形の専用什器を常設し、ホークスのキャラクターを掲出した2種類の什器

で、ホークスグッズを販売している。また、キャンペーンにも積極的に参加している。アビスパ福岡との連携、公共交通機関戸の連携、在福マスコミとの連携、HKT48 ホークス応援隊など様々な連携を図っている。

第4章第2節 ファイターズ

ファイターズは、サッポロビール株式会社との連携で、缶ビールのラベルをファイターズのロゴなどを使用している。北海道日本ハムファイターズファンクラブジャックスカードは、北海道に拠点を持つ、日本プロ野球球団「北海道日本ハムファイターズ」とジャックスカードとのオフィシャル提携カードであり、本カードは、北海道日本ハムファイターズファンには嬉しいサービス特典が満載のカードサービス内容となっており、カードフェイスも、北海道日本ハムファイターズのロゴマークが印字されたデザインとなっている。ご入会記念プレゼントとして、お客様にファイターズオリジナルグッズをプレゼント、ファイターズマガジンのお届け、カード提示でチケット購入割引き、などがある。このようにスポンサーと球団は繋がっているのである。

第5章 まとめ

今回、プロ野球の歴史、プロ野球の運営母体、ホークスとファイターズの比較を研究してみてプロ野球の奥の深さがとてもよくわかった。特にホークスとファイターズの比較では本拠地が九州、北海道とひとつしかない球団なので同じような結果になると思ったが異なった結果になった。下の表がホークスとファイターズの比較した結果である。両チームのホームゲーム入場者数および戦績の相関係数である。やはりホークスは打率と関係していることがわかる。一方ファイターズはあまり偏りがみられなかった。順位が低い年ほどファイターズはホームゲーム入場者数が少なかった。スポンサーとの提携はやはり地元の企業との連携がとても多い印象を受けた。両チームとも地元ファンを大切に運営を図っているのがよくわかった。私は今回研究をしてみて、今後のプロ野球界がものすごく楽しみになった。たくさん球団があるが、それぞれどのように売上げを伸ばしているかなど興味を持った。在京球団などの動向も今後楽しみだ。

【参考文献】

凡例：日本プロ野球機構の「年度別成績*年 セントラル・リーグ」および「年度別成績*年 パシフィック・リーグ」は、Copyright (C) 1996-2015 と更新年が 2015 年であり、ファイル数が 26 を越えるために、更新年に付記する小文字のアルファベットの替わりに、セントラル・リーグならば「c1.」、パシフィックならば「p1.」という略称のあとに、チーム成績の年を示した。例えば、(2015c1.1950)は「年度別成績 1950 年 セントラル・リーグ」を意味する。

【Web コンテンツ】

富田 翔平「プロ野球について」
(2015 年 1 月 10 日提出 ゼミ卒業論文)

ウィキペディア(2014/12/25)「福岡ソフトバンクホークス - Wikipedia」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A6%8F%E5%B2%A1%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B9>

ウィキペディア(2015/1/6)「北海道日本ハムファイターズ - Wikipedia」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%83%8F%E3%83%A0%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%82%BA>

DongKing(2010)「観客動員数」<http://dongking.web.fc2.com/data/spectators.html>

NAVER (2014/9/10)「日本の野球場一覧 - NAVER まとめ」

<http://matome.naver.jp/odai/2136932661219646401>

セントラル野球連盟(2009/10/12)「2009 年度 セントラル・リーグ選手権試合入場者数」

http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2009cl.pdf

セントラル野球連盟(2010/10/15)「2010 年度 セントラル・リーグ選手権試合入場者数」

http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2010cl.pdf

セントラル野球連盟(2011/10/25)「2011 年度 セントラル・リーグ選手権試合入場者数」

http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2011cl.pdf

セントラル野球連盟(2012/10/9)「2012 年度 セントラル・リーグ選手権試合入場者数」

http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2012cl.pdf

セントラル野球連盟(2013/10/8)「2013 年度 セントラル・リーグ選手権試合入場者数」

http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2013cl.pdf

セントラル野球連盟(2014/10/7)「2014 年度 セントラル・リーグ選手権試合入場者数」

http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2014cl.pdf

日本プロ野球史探訪倶楽部(2005)「球団別入場者数」

<http://www.d7.dion.ne.jp/~xmot/kankyaku.htm#00-01>

日本野球機構(2013a)「セントラル・リーグ年度別入場者数(1950-2013)」

http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_yearly_cl.pdf

日本野球機構(2013b)「パシフィック・リーグ年度別入場者数(1950-2013)」

http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_yearly_pl.pdf

日本野球機構(2014a)「2014 年度 公式戦成績」<http://bis.npb.or.jp/2014/stats/>

日本野球機構(2014b)「2014 年度 セントラル・リーグ チーム打撃成績」

http://bis.npb.or.jp/2014/stats/tmb_c.html

日本野球機構(2014c)「2014 年度 セントラル・リーグ チーム投手成績」

http://bis.npb.or.jp/2014/stats/tmp_c.html

日本野球機構(2014d)「2014 年度 セントラル・リーグ チーム守備成績」

http://bis.npb.or.jp/2014/stats/tmf_c.html

日本野球機構(2014e)「2014 年度 パシフィック・リーグ チーム打撃成績」

富田 翔平「プロ野球について」
(2015年1月10日提出 ゼミ卒業論文)

http://bis.npb.or.jp/2014/stats/tmb_p.html

日本野球機構(2014f)「2014年度 パシフィック・リーグ チーム投手成績」

http://bis.npb.or.jp/2014/stats/tmp_p.html

日本野球機構(2014g)「2014年度 パシフィック・リーグ チーム投手成績」

http://bis.npb.or.jp/2014/stats/tmf_p.html

日本野球機構(2014h)「年度別成績 2014年 セントラル・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2014.html

日本野球機構(2014i)「年度別成績 2014年 パシフィック・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2014.html

日本野球機構(2014j)「福岡ソフトバンクホークス 年度別成績 (1938-2014)」

http://bis.npb.or.jp/teams/yearly_h.html

日本野球機構(2014k)「北海道日本ハムファイターズ 年度別成績 (1946-2014)」

http://bis.npb.or.jp/teams/yearly_f.html

日本野球機構(2015c1.1950)「年度別成績 1950年 セントラル・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1950.html

日本野球機構(2015p1.1950)「年度別成績 1950年 パシフィック・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1950.html

日本野球機構(2015c1.1951)「年度別成績 1951年 セントラル・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1951.html

日本野球機構(2015p1.1951)「年度別成績 1951年 パシフィック」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1951.html

日本野球機構(2015c1.1952)「年度別成績 1952年 セントラル・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1952.html

日本野球機構(2015p1.1952)「年度別成績 1952年 パシフィック」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1952.html

日本野球機構(2015c1.1953)「年度別成績 1953年 セントラル・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1953.html

日本野球機構(2015p1.1953)「年度別成績 1953年 パシフィック・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1953.html

日本野球機構(2015c1.1954)「年度別成績 1954年 セントラル・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1954.html

日本野球機構(2015p1.1954)「年度別成績 1954年 パシフィック・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1954.html

日本野球機構(2015c1.1955)「年度別成績 1955年 セントラル・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1955.html

日本野球機構(2015p1.1955)「年度別成績 1955年 パシフィック・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1955.html
日本野球機構(2015c1.1956)「年度別成績 1956年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1956.html
日本野球機構(2015pl.1956)「年度別成績 1956年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1956.html
日本野球機構(2015c1.1957)「年度別成績 1957年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1957.html
日本野球機構(2015pl.1957)「年度別成績 1957年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1957.html
日本野球機構(2015c1.1958)「年度別成績 1958年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1958.html
日本野球機構(2015pl.1958)「年度別成績 1958年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1958.html
日本野球機構(2015c1.1959)「年度別成績 1959年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1959.html
日本野球機構(2015pl.1959)「年度別成績 1959年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1959.html
日本野球機構(2015c1.1960)「年度別成績 1960年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1960.html
日本野球機構(2015pl.1960)「年度別成績 1960年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1960.html
日本野球機構(2015c1.1961)「年度別成績 1961年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1961.html
日本野球機構(2015pl.1961)「年度別成績 1961年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1961.html
日本野球機構(2015c1.1962)「年度別成績 1962年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1962.html
日本野球機構(2015pl.1962)「年度別成績 1962年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1962.html
日本野球機構(2015c1.1963)「年度別成績 1963年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1963.html
日本野球機構(2015pl.1963)「年度別成績 1963年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1963.html
日本野球機構(2015c1.1964)「年度別成績 1964年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1964.html
日本野球機構(2015pl.1964)「年度別成績 1964年 パシフィック・リーグ」

富田 翔平「プロ野球について」
(2015年1月10日提出 ゼミ卒業論文)

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1964.html
日本野球機構(2015c1.1965)「年度別成績 1965年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1965.html
日本野球機構(2015p1.1965)「年度別成績 1965年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1965.html
日本野球機構(2015c1.1966)「年度別成績 1966年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1966.html
日本野球機構(2015p1.1966)「年度別成績 1966年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1966.html
日本野球機構(2015c1.1967)「年度別成績 1967年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1967.html
日本野球機構(2015p1.1967)「年度別成績 1967年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1967.html
日本野球機構(2015c1.1968)「年度別成績 1968年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1968.html
日本野球機構(2015p1.1968)「年度別成績 1968年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1968.html
日本野球機構(2015c1.1969)「年度別成績 1969年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1969.html
日本野球機構(2015p1.1969)「年度別成績 1969年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1969.html
日本野球機構(2015c1.1970)「年度別成績 1970年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1970.html
日本野球機構(2015p1.1970)「年度別成績 1970年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1970.html
日本野球機構(2015c1.1971)「年度別成績 1971年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1971.html
日本野球機構(2015p1.1971)「年度別成績 1971年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1971.html
日本野球機構(2015c1.1972)「年度別成績 1972年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1972.html
日本野球機構(2015p1.1972)「年度別成績 1972年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1972.html
日本野球機構(2015c1.1973)「年度別成績 1973年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1973.html
日本野球機構(2015p1.1973)「年度別成績 1973年 パシフィック・リーグ」

富田 翔平「プロ野球について」
(2015年1月10日提出 ゼミ卒業論文)

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1973.html
日本野球機構(2015c1.1974)「年度別成績 1974年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1974.html
日本野球機構(2015p1.1974)「年度別成績 1974年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1974.html
日本野球機構(2015c1.1975)「年度別成績 1975年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1975.html
日本野球機構(2015p1.1975)「年度別成績 1975年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1975.html
日本野球機構(2015c1.1976)「年度別成績 1976年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1976.html
日本野球機構(2015p1.1976)「年度別成績 1976年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1976.html
日本野球機構(2015c1.1977)「年度別成績 1977年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1977.html
日本野球機構(2015p1.1977)「年度別成績 1977年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1977.html
日本野球機構(2015c1.1978)「年度別成績 1978年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1978.html
日本野球機構(2015p1.1978)「年度別成績 1978年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1978.html
日本野球機構(2015c1.1979)「年度別成績 1979年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1979.html
日本野球機構(2015p1.1979)「年度別成績 1979年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1979.html
日本野球機構(2015c1.1980)「年度別成績 1980年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1980.html
日本野球機構(2015p1.1980)「年度別成績 1980年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1980.html
日本野球機構(2015c1.1981)「年度別成績 1981年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1981.html
日本野球機構(2015p1.1981)「年度別成績 1981年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1981.html
日本野球機構(2015c1.1982)「年度別成績 1982年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1982.html
日本野球機構(2015p1.1982)「年度別成績 1982年 パシフィック・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1982.html
日本野球機構(2015c1.1983)「年度別成績 1983年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1983.html
日本野球機構(2015p1.1983)「年度別成績 1983年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1983.html
日本野球機構(2015c1.1984)「年度別成績 1984年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1984.html
日本野球機構(2015p1.1984)「年度別成績 1984年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1984.html
日本野球機構(2015c1.1985)「年度別成績 1985年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1985.html
日本野球機構(2015p1.1985)「年度別成績 1985年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1985.html
日本野球機構(2015c1.1986)「年度別成績 1986年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1986.html
日本野球機構(2015p1.1986)「年度別成績 1986年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1986.html
日本野球機構(2015c1.1987)「年度別成績 1987年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1987.html
日本野球機構(2015p1.1987)「年度別成績 1987年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1987.html
日本野球機構(2015c1.1988)「年度別成績 1988年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1988.html
日本野球機構(2015p1.1988)「年度別成績 1988年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1988.html
日本野球機構(2015c1.1989)「年度別成績 1989年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1989.html
日本野球機構(2015p1.1989)「年度別成績 1989年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1989.html
日本野球機構(2015c1.1990)「年度別成績 1990年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1990.html
日本野球機構(2015p1.1990)「年度別成績 1990年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1990.html
日本野球機構(2015c1.1991)「年度別成績 1991年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1991.html
日本野球機構(2015p1.1991)「年度別成績 1991年 パシフィック・リーグ」

富田 翔平「プロ野球について」
(2015年1月10日提出 ゼミ卒業論文)

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1991.html
日本野球機構(2015c1.1992)「年度別成績 1992年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1992.html
日本野球機構(2015p1.1992)「年度別成績 1992年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1992.html
日本野球機構(2015c1.1993)「年度別成績 1993年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1993.html
日本野球機構(2015p1.1993)「年度別成績 1993年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1993.html
日本野球機構(2015c1.1994)「年度別成績 1994年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1994.html
日本野球機構(2015p1.1994)「年度別成績 1994年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1994.html
日本野球機構(2015c1.1995)「年度別成績 1995年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1995.html
日本野球機構(2015p1.1995)「年度別成績 1995年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1995.html
日本野球機構(2015c1.1996)「年度別成績 1996年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1996.html
日本野球機構(2015p1.1996)「年度別成績 1996年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1996.html
日本野球機構(2015c1.1997)「年度別成績 1997年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1997.html
日本野球機構(2015p1.1997)「年度別成績 1997年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1997.html
日本野球機構(2015c1.1998)「年度別成績 1998年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1998.html
日本野球機構(2015p1.1998)「年度別成績 1998年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1998.html
日本野球機構(2015c1.1999)「年度別成績 1999年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_1999.html
日本野球機構(2015p1.1999)「年度別成績 1999年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_1999.html
日本野球機構(2015c1.2000)「年度別成績 2000年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2000.html
日本野球機構(2015p1.2000)「年度別成績 2000年 パシフィック・リーグ」

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2000.html
日本野球機構(2015c1.2001)「年度別成績 2001年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2001.html
日本野球機構(2015pl.2001)「年度別成績 2001年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2001.html
日本野球機構(2015c1.2002)「年度別成績 2002年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2002.html
日本野球機構(2015pl.2002)「年度別成績 2002年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2002.html
日本野球機構(2015c1.2003)「年度別成績 2003年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2003.html
日本野球機構(2015pl.2003)「年度別成績 2003年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2003.html
日本野球機構(2015c1.2004)「年度別成績 2004年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2004.html
日本野球機構(2015pl.2004)「年度別成績 2004年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2004.html
日本野球機構(2015c1.2005)「年度別成績 2005年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2005.html
日本野球機構(2015pl.2005)「年度別成績 2005年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2005.html
日本野球機構(2015c1.2006)「年度別成績 2006年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2006.html
日本野球機構(2015pl.2006)「年度別成績 2006年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2006.html
日本野球機構(2015c1.2007)「年度別成績 2007年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2007.html
日本野球機構(2015pl.2007)「年度別成績 2007年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2007.html
日本野球機構(2015c1.2008)「年度別成績 2008年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2008.html
日本野球機構(2015pl.2008)「年度別成績 2008年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2008.html
日本野球機構(2015c1.2009)「年度別成績 2009年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2009.html
日本野球機構(2015pl.2009)「年度別成績 2009年 パシフィック・リーグ」

富田 翔平「プロ野球について」
(2015年1月10日提出 ゼミ卒業論文)

http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2009.html
日本野球機構(2015c1.2010)「年度別成績 2010年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2010.html
日本野球機構(2015pl.2010)「年度別成績 2010年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2010.html
日本野球機構(2015c1.2011)「年度別成績 2011年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2011.html
日本野球機構(2015pl.2011)「年度別成績 2011年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2011.html
日本野球機構(2015c1.2012)「年度別成績 2012年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2012.html
日本野球機構(2015pl.2012)「年度別成績 2012年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2012.html
日本野球機構(2015c1.2013)「年度別成績 2013年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2013.html
日本野球機構(2015pl.2013)「年度別成績 2013年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2013.html
日本野球機構(2015c1.2014)「年度別成績 2014年 セントラル・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/centralleague_2014.html
日本野球機構(2015pl.2014)「年度別成績 2014年 パシフィック・リーグ」
http://bis.npb.or.jp/yearly/pacificleague_2014.html
パシフィック野球連盟(2009/10/11)「2009年度パシフィック・リーグ観客動員数」
http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2009pl.pdf
パシフィック野球連盟(2010/10/1)「2010年度パシフィック・リーグ観客動員数」
http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2010pl.pdf
パシフィック野球連盟(2011/10/22)「2011年度パシフィック・リーグ観客動員数」
http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2011pl.pdf
パシフィック野球連盟(2012/10/9)「2012年度パシフィック・リーグ観客動員数」
http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2012pl.pdf
パシフィック野球連盟(2013/10/13)「2013年度パシフィック・リーグ観客動員数」
http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2013pl.pdf
パシフィック野球連盟(2014/10/7)「2014年度パシフィック・リーグ観客動員数」
http://www.npb.or.jp/statistics/attendance_2014pl.pdf
プロ野球 Freak(2009)「観客動員数(2009年) プロ野球 Freak」
<http://baseball-freak.com/audience/09/>
プロ野球 Freak(2010)「観客動員数(2010年) プロ野球 Freak」

富田 翔平「プロ野球について」
(2015 年 1 月 10 日提出 ゼミ卒業論文)

<http://baseball-freak.com/audience/10/>

プロ野球 Freak(2011) 「観客動員数(2011年) プロ野球 Freak」

<http://baseball-freak.com/audience/11/>

プロ野球 Freak(2012) 「観客動員数(2012年) プロ野球 Freak」

<http://baseball-freak.com/audience/12/>

プロ野球 Freak(2013) 「観客動員数(2013年) プロ野球 Freak」

<http://baseball-freak.com/audience/13/>

福岡ソフトバンクホークス(更新年月日不明)「福岡ソフトバンクホークス・オフィシャル
サイト」<http://www.softbankhawks.co.jp/>

北海道日本ハムファイターズ(更新年月日不明)「北海道日本ハムファイターズ」

<http://www.fighters.co.jp/>

丸山隆平(2011/06/22)「以前は映画やビールも——プロ野球のスポンサー企業の変化 - CSR
特集 | 上場企業情報サイト Kmonos(クモノス)」

<https://kmonos.jp/csr/2011/06/c020.html>